

音楽研究科博士前期課程 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

高度な専門性と幅広い知識、旺盛な国際感覚をモットーに、現代社会における真の音楽芸術のプロとしての能力を身につけ、国際的な視野を持って芸術文化の発展に寄与できる人材を育成することを目指しています。

■ 修了までに身につけるべき資質・能力

- ・音楽芸術の専門家としての高い表現能力
- ・学際的な研究方法と専門的な知識
- ・自らの才能と技術を生かして社会の需要を作り出す力
- ・領域の枠を超えた学修によって得た広い視野と応用力、国際感覚

■ 学位の授与方針・評価方法

- ・領域により「修士作品」、「修士論文」又は「修士演奏」等の審査及び最終試験に合格したものを修了と認め、修士（音楽）の学位を授与します。
- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・「修士作品」、「修士論文」又は「修士演奏」及び最終試験等を審査し総合的に評価します。

カリキュラム・ポリシー

■ ディプロマ・ポリシー達成のための教育課程の編成方針

学部で習得した音楽一般および専門能力を土台とし、さらに高度な専門性を身につけ自らが開拓していく力を養うことを目指しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

年度ごとに研究計画を立て、学部で培った作曲、研究、演奏能力を深化させるとともに学際的研究能力を身につけることで、音楽研究を高度に発展させる力を養います。単一専攻制であるため、各専門分野を深める授業のみならず、他領域の授業や、教養教育、或いは美術研究科との連携も含めた複合領域による授業など、領域横断的な研究を行うことが可能となっています。博士後期課程への研究の継続性を図るため、創作・演奏領域の学生の修士論文（一部選択）の指導も行います。

■ 教育課程の評価方針・方法

学生個々の研究計画書と研究報告書をもとに研究状況を総合的に評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・音楽芸術における高度な知識・技能・表現力・応用力をもつ人
- ・自発的に社会の需要を掘り起こす意識を持っている人
- ・学際的研究能力と国際的な感覚を持ち合わせた人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・音楽芸術の高度な専門能力
- ・音楽芸術に関する理論知識
- ・語学力と国際的感覚

■入学試験の基本的な方針

提出作品（作曲領域）、実技試験、研究計画書、口述試験、外国語、西洋音楽史などの試験結果を統合して選抜します。